

水が語るもの



水ものがたり

世界の川と水インフラ (5) - ガンジス川 後編 -

世界の水 水辺空間を生かした都市再生の事例
- ヨーロッパ(その7) -

水害碑 - 水辺の石碑は語る -

京都の水文化(その2) 江戸期の舟運
~ 高瀬川が生み出す経済的価値 ~

水と文学 流転する水都大阪の文学

台風5313号、5907号、5915号と淀川の大洪水

うおーたーなっと
水都大阪と幻の大阪万国技館 (11)

川 THE RIVER シ リ ー ズ 寝 屋 川



市道路肩崩落の被災状況調査 (茨城県水戸市地先)

近畿地方整備局の東日本の水害への
TEC-I-FORCEの派遣
2019年の台風19号に伴う豪雨によって、東日本で堤防決壊が71河川1440箇所発生し、死者95人、浸水などの家屋被害約96,000棟の大きな被害をもたらしました。これらの被害への対応支援のために、全国の国土交通省の地方整備局からTEC-I-FORCE (緊急災害対策派遣隊) が、市町村などの自治体に派遣され、近畿地方整備局 (以下近畿地整) から66班、のべ1486人が派遣され現地で活動しました。
TEC-I-FORCEとは聞き慣れない存在ですが、今や災害対応に欠かせられない組織としてのその活動を紹介します。

トピックス

TEC-I-FORCEの活動

活動内容

「災害対策基本法」の目的を果たすために国土交通省に設置されたもので、TEC-I-FORCEの隊員は、国土交通省の全国にある地方整備局などの日常の河川や砂防、道路の建設や維持管理の業務に精通した職員が任命され、さらに災害対応に備えた日頃の研修や訓練によって災害復旧の専門的な技術の向上に努められています。

その有する技術力を活かし、台風や豪雨、地震や津波、また火山の噴火などの大規模自然災害が発生した時に、自治体の職員だけでは、対応が難しい場合に、いち早く被災地に向き自治体を支援しています。二次災害の防止や円滑で迅速な復旧のための被災状況調査、災害対応の技術的助言、災害対策用機械による応急対策など、被災した自治体の早期復旧のために全力を挙げて支援します。また、「リエゾン (災害対策現地情報連絡員)」として隊員が災害発生やそのおそれのある自治体に派遣され、対応に迫られる自治体職員に代わり自治体のニーズを把握し支援機関との調整などの支援が行われています。

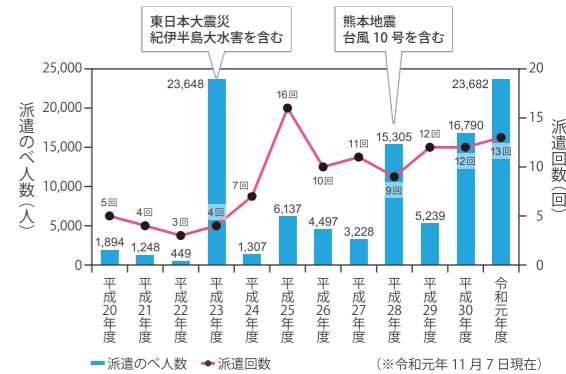
TEC-I-FORCEの体制

大規模自然災害時の自治体への支援は、従来から発生の都度に体制を整え行われていたが、より迅速な支援を可能とするために、平成20年にTEC-I-FORCEとして創設されました。職員をあらかじめ隊員ととして任命し、日頃から人員や資機材の派遣体制を整え、いち早く被災自治体への支援が可能になりました。平成31年4月現在では、全国で12,654人 (近



角田市役所に調査結果報告 (宮城県角田市地先)

創設以来 106 の災害に、 のべ 10 万人・日を越える隊員を派遣



【写真・資料提供：国土交通省 近畿地方整備局】

本誌は、近畿の「道の駅」、一部の府県および公共施設などに配布しています。
インターネット環境をお持ちの場合は、
<http://www.kc-center.co.jp/suishitsu/>
においても最新号とバックナンバーをご覧になれます。
誠に申し訳ございませんが、バックナンバーの配布は
行っておりませんので、ご了承ください。

編集後記

「水が語るもの」の創刊号から掲載いただいた、宮井 宏博士による淀川の洪水についてのシリーズは、今号で終了です。豊富な資料に基づいた、詳細で生々しい災害の記事は有意義で好評でした。長い間のご執筆に感謝申し上げます。

今号からの新しいシリーズとして、水害等の伝承のために設置された、「水害碑」の掲載を始めました。今年の台風による東日本の同時多発的な水害をはじめ、近年は多くの災害が発生しています。気候変動による災害が増大の兆しを見ている中で、災害経験を忘れないための伝承は重要と考えられます。今後、災害碑を活用した伝承の行事と併せて掲載を続けていきます。
【担当：益倉 克成、服部 龍雄】

水

が語るもの

第19号 令和元年12月発行 (年2回発行)

編集・発行
一般社団法人近畿建設協会 技術部
〒540-6591 大阪市中央区大手前 1-7-31 OMM 13F
TEL 06-6941-3413 FAX 06-6910-5953
URL <http://www.kyokai-kinki.or.jp>

「水が語るもの」はインターネットでもご覧になれます。
<http://www.kc-center.co.jp/suishitsu/>

誌面に関するお問い合わせ先
E-mail (編集担当):
masukura-katsushige@kyokai-kinki.or.jp

協力 株式会社 近畿地域づくりセンター



植物油インキを使用しています。
この印刷物は再生可能な紙を使用しております。

水が語るもの

表紙写真

大阪府大阪市都島区片町「大坂城沿いの寝屋川」



目次

3

水ものがたり

世界の川と水インフラ(5) -ガンジス川 後編-

京都大学名誉教授 池淵 周一
(公財)河川財団研究フェロー

6

川シリーズ

寝屋川

10

世界の水

水辺空間を生かした都市再生の事例 -ヨーロッパ(その7)-

工学博士 中野 雅弘
元大阪産業大学教授

12

水害碑

水辺の石碑は語る

14

京都の水文化(その2)

江戸期の舟運~高瀬川が生み出す経済的価値~

京都産業大学 現代社会学部 教授 鈴木 康久

16

水と文学

流転する水都大阪の文学

評論家・文化プロデューサー 河内 厚郎

20

台風5313号、5907号、5915号と淀川の大洪水

工学博士 宮井 宏

26

うおーたーねっと
水都大阪と幻の大阪大国技館(11)

水都の会 城北川プロジェクト 代表 藤井 薫

28

トピックス
TEC-FORCEの活動



水ものがたり

世界の川と水インフラ(5)

京都大学名誉教授 (公財)河川財団研究フェロー

池淵 周一



2013年11月末から12月初旬にかけてバングラデシュに出かけた。国民議会選挙を間近にひかえ、ストライキの最中ということもあり、軍隊と警察の車で警護をされての移動で行程は大きく狂い、ときには船上泊を強いられることもあったが、バングラデシュを流れるガンジス川やブラマプトラ川の巨大河川や沖積低平地、河口デルタを巡った。図は関連エリアを再掲したものである。



3つの巨大河川流域と主要河川

以下、バングラデシュ国はバ国と略す。バ国は亜熱帯気候帯に属し、雨期(5月~10月)と乾期(11月~4月)に大別され、年平均雨量は2,300mmでその約8割は雨期に集中する。バ国の地はガンジス川、ブラマプトラ川が合流し、さらにメグナ川を合わせ最後はベンガル湾に注ぎ込む。大量の水と、上流及び河岸浸食から大量の土砂供給もあり、広大な沖積低平地を生み出し、洪水時は氾濫域となる。下流デルタ地域は本流、分流が複雑に入り組んでいて広大なマングローブ林を形成している。

バ国は1947年のインド・パキスタン分離独立を経て、東パキスタンとなっていた下流域が1971年に独立した国である。面積は約15万km²、人口は約1.5億人、人口密度1km²あたり1,100人は国別では世界一とか。首都はダッカ。言葉は

ベンガル語で、国民の大部分はイスラム教を信仰している。パキスタンからの分離独立には、ヒンディー語、ヒンズー教との違いが背景にあるようだ。

3つの大河川の合流や分流がバ国に広大な沖積低平地とデルタ地帯をつくり出している。沖積低平地は標高がわずか数mほどしかなく、自然堤防をなす河川間の小高い高地でも標高が50mを越えないという。広大な沖積低平地は、ときに洪水が起こると広大な氾濫・浸水域になる。現に1998年の大洪水では、国土の約7割が浸水したという。水が引いても低地は水はけが悪く、水たまりや湿地帯にもなる。下流部の河道勾配は極めて緩く、普段でもベンガル湾の干満差5、6mがガンジス川とブラマプトラ川の合流地点から上流数10kmにまで潮汐の影響が及ぶとい

う。毎年のようにやってくるサイクロンは河口沿岸部に高潮被害をもたらし、ときに多数の死傷者を出している。1991年に起きた史上最大級のサイクロンで約14万人の死者が出たことから、バ国政府はもとより国際機関や援助国の支援もえて、サイクロン災害対策の一つとしてサイクロンシェルターの整備を進めた。現在では約2,700箇所建設されているという。いろんな形式・形状のシェルターがあり、なかには小学校兼用サイクロンシェルターもある。それでも避難した人々の一部はダッカなどの都市部にあるスラム街に移住、そこに定住することにもなる。



シュンドルボン国立公園の縮尺模型

デモで騒然として治安が悪いことから船内に泊まることになった。クルナ港からクルーズ船に乗り、世界最大級のマンダローブ群生地であるシュンドルボン国立公園の一角に上陸。国立公園は世界遺産に指定されているため、立ち入りが制限されている。河口のマンダローブ林帯は潮位差が一日に5m前後あり、潮の干満時には水の流れは速い。マンダローブの樹林帯のなか

人。リキシヤ（ホロ付き席をつけた自転車）、CNG（圧縮天然ガスを使う三輪タクシー）、車、中古のバスが所狭しと町中を走り回り、その渋滞は凄いとしか言いようがない。リキシヤ、CNGが交通渋滞をまねく要因とまで、その抑制も検討されているが、運転手の再就職が改革の障害になっているとか。

そこでレンガ成型して天日干したものが山積みされている。それを石炭を燃やして焼成し大量のレンガを製造している。レンガはバ国ではビルやインフラ整備に欠かせないものである。レンガ成型には多くの出稼者が働き、林立する工場の煙突からは二酸化炭素が大量に排出されている感じがした。

は以外に涼しい。ここは木々の間まで水が浸入しており、すぐ湿地になる。樹間のギャップはかなり広い草原になっていて、草原はマダラシカを育て、地形の多様性がベンガルタイガーを息させている。絶滅危惧種のベンガルタイガーはシュンドルボン国立公園の世界自然遺産の指標種になっていて、公園はその保護区でもある。



線路上のスラム・バザール

ダッカからシュンドルボン国立公園に向かうには船がでるクルナの港まで行くことになる。クルナの港はデモで騒然として治安が悪いことから船内に泊まることになった。クルナ港からクルーズ船に乗り、世界最大級のマンダローブ群生地であるシュンドルボン国立公園の一角に上陸。国立公園は世界遺産に指定されているため、立ち入りが制限されている。河口のマンダローブ林帯は潮位差が一日に5m前後あり、潮の干満時には水の流れは速い。マンダローブの樹林帯のなか

示している。エネルギー資源としては北部やベンガル湾沖で採掘される天然ガスが豊富で国民の多くに供給されており、停電も少ないという。教育振興も進み、小、中、高の就学率も上がってきている。貧困層の村々では学校に通っていない子供もたくさんいるが、みんな明るく、その行動には輝きさえ感じられた。あふるる水、氾濫原とはいえ広大な大地に住む人々、貧しくも実直でたくましく暮らし、働いている。教育振興が進み多くの生産人口を抱え、安定した食糧供給と経済成長の兆しを感じさせられた。



ガンジス川の自然堤防

河口沿岸域や河口デルタ域は川に栄養分が豊富なため漁業が盛んで、

小船や網が張られて川魚が大量に獲られている。また多くの養殖場があり、一部ではマンダローブ林を伐採し、エビ養殖が行われている。肉はイラム宗教上、鶏肉が主であり、魚はそれを補う貴重なタンパク源である。とりわけ河口デルタ域には約350万人もの漁民が村々に住み、漁をし、獲った魚は都市部に搬送されている。エビなどは海外にも輸出されている。とはい

て対応がなされているのだが、訪れた下流沿岸部の貧しい村々での井戸利用は少々心配であった。（写真）流域外であるが、ベンガル湾沿岸のバ国第2の都市チッタゴンの上流丘陵地にバ国唯一の発電ダム、カプタイダムがある。1963年に完成し、230メガワットの電力を生み出すが、この地に住む多くの住民は農地を失い、インドに移住したという。

農業が営まれている。大洪水になれば家は流されるが、住んでいる人々は早目に対岸に避難したり、他のチャールに渡り住むという。総延長9,000kmを超える堤防が主要河川沿いに整備されているといわれているが、ほとんどが写真で見えるような自然堤防である。人家連担区間では護岸や水制で堤防の浸食防止を図っているが、材料となる石や礫はインドからの輸入に頼らざるをえないので、浸食防止にはもっぱら竹や雑木を組み合わせた簡素な護岸工である。洪水により堤防が壊れ

浸食したところも土囊や一時的な補修でやり過ごしている。大量の洪水流量と土砂流送、雨期と乾期の流量変動の大きさ、これらがもたらす河道の不安定さを考えると、堅固な構造物による制御は現実的に難しいのでは。こうしたやり過ごす防御姿勢は、ある意味、洪水との共存にも見える。

洪水時には氾濫・浸水域となる沖積低平地であるが、適度な洪水はシルトや栄養分などを運んできており、肥沃な土地を生み出している。こうした地は昔はジュート栽培も盛んであったようであるが、洪水防御や灌漑排水事業を進め、米作の二期作、三期作を可能とし、高収量品種の導入などで、いまでは世界4位の米生産国になっている。灌漑用水としての水利利用は90%を超えている。車窓からは田植え・植え付け、開花・成長、そして刈り取り・収穫が同時に進行している風景を見ることができ



粗末な家と共同水洗い場

信貴・生駒の山地からの流入水を主に受け入れ、山沿いを北流して寝屋川本川に大東市住道付近で合流しています。かつての湿地が流域の大部分を占めていた時代にも陸化していた地域で、奈良の飛鳥地方への経路でもあったため、流域には古代からの遺跡が多く存在しています。ここで、取り上げたもの他に、当時日本一大きな仏像があり聖武天皇の東大寺の大仏建立の契機となった知識寺、奈良時代に道鏡の本拠であった由義寺(弓削寺)、平安時代に在原業平が女性のもとに通ったという伝説の業平道など歴史の舞台になった多くの史跡があります。

池島・福万寺遺跡

八尾市と東大阪にまたがる大規模な遺跡です。洪水対策のために、洪水時に恩智川の水を貯留する治水緑地の建設時に発掘されました。弥生時代から現代まで、農業が続けられていて、農業生産の移り変わりがよくわかる遺跡です。写真は、弥生時代後期の水田の発掘状況で、灌漑用水を有効に利用していたことがよくわかります。現在は、治水緑地として整備され、洪水防御を果たすとともに、市民の憩いの場として活用されています。



【写真提供：公益財団法人 大阪府文化財センター】



【写真提供：八尾市 教育委員会】

中河内地方最大の前方後円墳で、埋葬者はわかっていませんが、地域を代表する王の墓と考えられています。この周辺には多くの古墳があり、古墳時代を通して大きな勢力をもった氏族の存在が推定されています。心合寺山古墳は八尾市による史跡整備事業により、生駒山麓の史跡の散策や歴史学習の拠点として、「しおんじやま古墳学習館」とともに、復元や整備が行われています。

花園多目的遊水地

都市化の進行が著しい寝屋川流域では、洪水対策として地上の河川改修などの対策では、限界があります。そのため、洪水時に一時的に河川の洪水をためる貯留施設や地下河川など



による対策が合わせて行われています。花園多目的遊水地は、流域全体で5か所に造られている遊水地(治水緑地)の一つです。洪水調節の機能だけでなく、平常時には、都市の貴重な空間として公園などに活用されています。洪水調節と公園などの機能を併せて効率的に利用するために、利用形態により3つのゾーンに分け、洪水をためる頻度を調整して、なるべく平常時の利用に支障がない工夫がされています。花園多目的遊水地に併設された花園ラグビー場では、ワールドカップの試合が開催され世界中からの多くのファンでにぎわいました。

長瀬川と玉串川の分流施設

2か所の築留樋門で取水された水路は、すぐ下流で合流して長瀬川になりますが、この地点で玉串川を分流しています。この地点は、旧大和川の時代にも二河川の分岐地点であり、地名も「二保」です。この周辺に限らず、旧大和川は貴重な都市内の水辺として、散策路や桜並木などによる水辺の環境整備が積極的に行われています。



築留樋門

大和川付け替えに伴う灌漑用水確保のために、大和川からの取水のための築留樋門2基と隣の青地樋門が新しい大和川の堤防を通して設置されました。近年の流域の都市化による農地減少のため、灌漑用水の需要は減少していますが、環境保全用水としての意義が増しています。

3 旧大和川

昔は寝屋川は、奈良県からの大和川と、柏原でそれに合流する石川の流れを受け入れる河川でしたが、江戸時代の1704(宝永4)年の大和川の付け替えにより、柏原市の築留地点で、大和川本川と切り離され、その後の流域の灌漑用の水路としての機能を果たすとともに、流域の排水を受け入れる河川になりました。旧大和川の流路であった、長瀬川、玉串川、平野川などが残っています。



寝屋神社

寝屋川が平地に降りたところが、寝屋川市の寝屋地区です。寝屋川の名前の由来となった寝屋長者の屋敷跡や寝屋神社があります。神社の鎮守の森は、開発が進んだ大阪府下では唯一のカナメモチの樹林の植生を残しています。境内には水や雨をつかさどる「水分神」も祭られています。近くには、旧街道の山根街道沿いに昔からの街並みが残されていて、歴史が感じられる地域です。

寝屋川

古代の歴史を支え、都市化を伴にした庶民の川

寝屋川は、かつては、大和地方から流入する大和川を受け入れていた河川でしたが、江戸時代中頃の長瀬川と玉串川の付け替えにより、大阪東部の排水を受け入れ、その地域の灌漑を行う河川に変遷しました。戦後のこの地域の急激な都市化に伴い災害の頻発と水質悪化に見舞われていましたが、治水施設の整備により水害が減少するとともに、下水道整備や関係者の努力により、「愛される河川」に向かって大きく変貌を遂げています。河川の特徴により恩智川、寝屋川本川、旧大和川に分けて考えられます。



2 寝屋川本川

生駒山地の北側の星田新池に源を発し、上流部は、恩智川と同様に陸化していた地域のため古くからの歴史を有していますが、平野部に降りてからの中下流部は、都市化の影響を大きく受け、また、地下水汲み上げによる地盤沈下の影響も加わり、洪水被害が頻発していました。そのため、下流部では河川改修が大規模に実施され、コンクリートの高い堤防に囲まれた場所もあります。



【河内名所図会】【資料提供：国立国会図書館デジタルコレクション】

野崎観音(慈眼寺)

大東市の山の麓にある、天平勝宝年間(8世紀中頃)に行基によって創建されたと伝えられる寺院で、江戸時代から続く「野崎詣り」で有名です。大坂側の天満橋の八軒家浜から野崎詣りの参拝客の屋形船が行き来していました。寝屋川支川の谷田川に観音浜があり、河内名所図会の野崎詣りの絵はこの付近のシーンと考えられますが、現在と打って変わった田園の場面が描かれています。



大川への合流点

寝屋川は、最下流で大坂城北側に沿って流れ、天満橋の上流の大川(旧淀川)に合流します。写真奥の橋梁の下が合流点です。この狭い河口しか出口がないことが、寝屋川の洪水対策が大変なことの一つの要因になっています。合流点の大川では、夏に天神祭の船渡御が行われ、飾り付けた船でにぎわっています。



旧大和川堤防跡

付け替えにより広い川幅と高い堤防の必要性が薄れたため、切り下げられて農地に転換され、残っているものは、神社の境内などにあったものなどです。その一つが、府立八尾高校の敷地内にある孤山です。この堤防跡の丘は何回も撤去されそうになりましたが、高校の教員と生徒の方々との愛着と熱意により、形は変わりましたが現在も残っています。



平野環濠跡

旧大和川の流路の一つである平野川沿いにある、外敵から町を守るために造られた環濠です。地域の全体を取り囲んでいましたが、公園や住宅のために埋め立てられ、現存するものは一部のみになりました。環濠の内側に杭神社、大念仏寺などの古くからの施設が存在しています。かつての環濠の出入り口である13か所の「口」には地藏堂が置かれ、今も地元の人々の環濠の意識が残っているようです。



まちを水害から守るため～寝屋川流域の整備～

大阪府 都市整備部 河川室 河川整備課 都市河川グループ 主査 荒木 大地

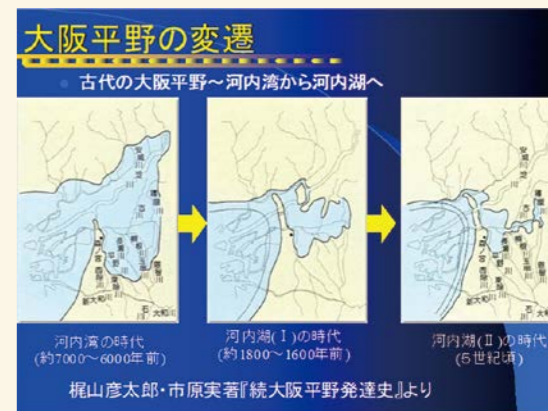
寝屋川流域は、東を生駒山地、西を上町台地、南を大和川、北を淀川に囲まれた、東西約14km、南北約19kmのほぼ台形をした流域であり、その面積は267.6km²と、大阪府の面積の約14%を占めており、約273万人の方が暮らしています。また、全国に名立たる中小製造業の集積地として、多種多様な製造業が立地し、優れた技術が数多く存在しています。

1. 大阪平野の変遷

寝屋川流域の地形的な特徴としては、流域の約3/4が「内水域」であること、雨水の出口が旧淀川合流点部の一地点しかないこと、淀川や大和川の堤防よりも土地が低いことなどが挙げられます。寝屋川流域は、6千年以上前は海水が浸入している湾でしたが、約3千年前には、淀川、大和川の沖積作用により、湾から潟へと変化し、さらに1600年前には、淡水の湖に変化しました。その後、安土・桃山時代に築造された淀川の文祿堤や江戸時代に行われた大和川の付替え工事により、河川からの新たな堆積がなされなくなったため、寝屋川流域は、土地が低い状態のまま、現在に至っています。

2. 治水計画の沿革

このように治水上、非常に不利な地形であることから、寝屋川流域はこれまで、多くの浸水被害に見舞われてきました。昭和29年には、それまでの最大実績降雨であった明治29年8月豪雨を対象降雨とした第一次計画が策定され、基本高水流量を536m³/sとして、第二寝屋川や平野川分水路の新川開削が行われました。しかしながら、事業着手もない昭和32年に計画降雨を上回る戦後最大降雨（八尾実績降雨）が観測され、昭和51年には、第二次計画が策定されました。第二次計画では、基本高水流量を1,650m³/sに改められ、排水機場や遊水地の整備などが計画に位



置付けられました。第二次計画策定時には、急速な都市化や地下水の汲み上げによる地盤沈下など、社会情勢も大きく変化しており、治水計画の見直しは不可避な状況でした。この第二次計画では、農地など、一定の湛水を許容していましたが、昭和50年代後半になると、第二次計画策定の予想をはるかに上回る都市化が進み、内水湛水を主体とした浸水被害形態が顕著になっていきます。昭和60年代に入ると、内水浸水といえども、湛水を許容される社会情勢ではなくなり、昭和63年に現計画である第三次計画が策定されました。第三次計画では、基本高水流量を2,700m³/sとし、地下河川や流域調節池といった治水施設の整備

3. さいごに

寝屋川流域では、前記のとおり、厳しい地形条件の中、流域住民の暮らしを洪水から守るため、国、大阪府、流域関係11市が協力して、「寝屋川流域総合治水対策協議会」を設立し、これまで治水施設の建設や流域対策など、河川と下水道と流域が一体となった治水対策を進めてきました。治水施設の整備効果は浸水戸数が減少するなど、一定の効果は出ているものの、近年においても、浸水被害が確認されており、大雨に負けないまちづくりのため、治水施設の整備をこれからも進めてまいります。



枚岡神社秋祭り

大阪東部の中河内地区では、夏祭りや秋祭り、太鼓台と地車の巡行が催行されています。河内一之宮といわれる東大阪市の枚岡神社では、地元を巡行した後に、23基の太鼓台と3基の地車が神社に集合します。参道を「チョーサ」の掛け声で登ってくる時には、担手の熱気に圧倒されます。



八尾河内音頭祭り

【写真提供：八尾市】

流域の祭

寝屋川流域は多くの伝統的なお祭りが行われています。そのいくつかをご紹介します。

この地域の盆踊りの中心は河内音頭です。毎年、八尾市の久宝寺緑地で行われる、地域で最大の盆踊りです。平成29年には、2872人の参加により、世界最多人数が参加する盆踊りとしてギネス認定されました。

大聖勝軍寺万灯会



大聖勝軍寺は聖徳太子ゆかりの寺で、「下の太子」とも呼ばれています。お盆の時に、行われる万灯会では、地元の方々に用意された1,000個をこえる絵灯籠がろうそくで灯され、幻想的な雰囲気を出します。

湯立神事

煮えたぎった湯を用いて、無病息災や五穀豊穡などを祈願する全国で広く行われている神事です。ここ八尾市の宝殿神社でも地元の氏子が集まって齋行されています。お湯のしずくを浴びると、無病息災になると言い伝えられています。



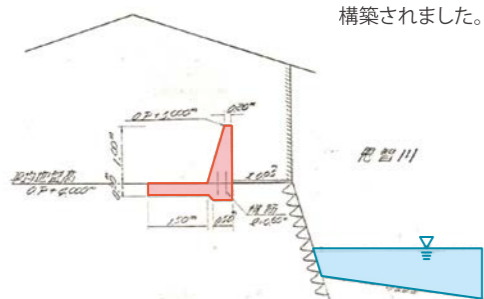
寝屋川の住道付近の変遷

恩智川が寝屋川本川に合流する大東市の住道付近は洪水被害が昭和40年、50年代には頻繁に発生し対策が急がれていました。

暫定対策として実施された 応急堤防

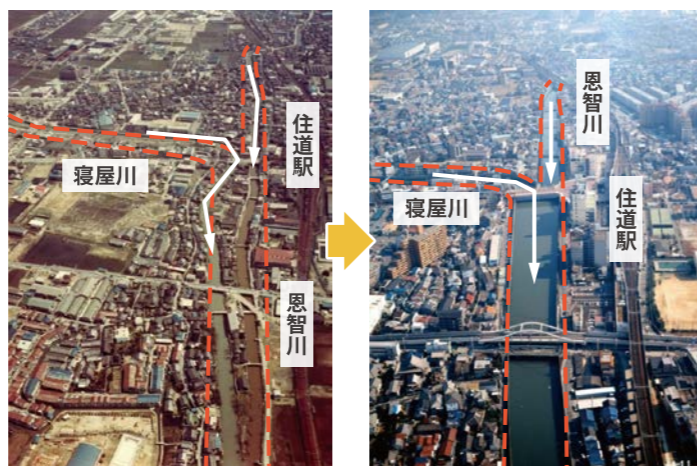


家屋内の中央に写っているものは、昭和50年頃に住道付近の家屋内に設置された応急堤防です。既設護岸をかさ上げすることが不可能であったため、護岸から3m控えた民家の中に本格的な工事までの応急対策としてこのような堤防が構築されました。



住道付近の河川改修

改修前は川幅が狭く、川の中に島があり、洪水が頻発していました。改修により、河川の拡幅、島の撤去、護岸の嵩上げが行われ、洪水被害の防止に大きく貢献しました。コンクリート護岸の嵩上げは、高いところでは市街地の地面から4mにもなるなど限界に達し、現在では、流域での洪水の貯留や地下河川などと組み合わせた総合治水対策が進められています。



改修前(S46)

改修後(H12)

【資料提供：大阪府】



流域対策（棟間貯留）

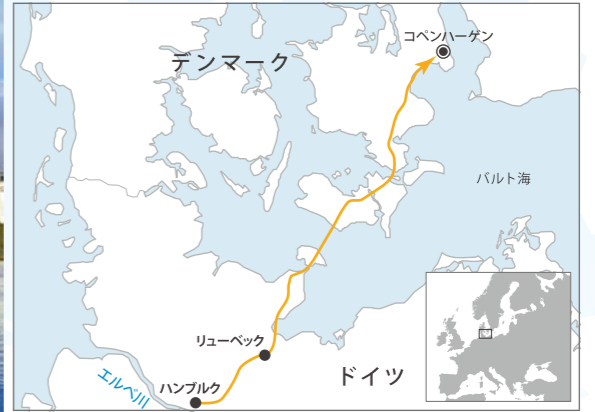


流域対策（校庭貯留）

世界の水

水辺空間を生かした都市再生の事例 — ヨーロッパ (その7) 北ドイツから北欧へ —

工学博士・元大阪産業大学教授
なかの まさひろ
中野 雅弘



水辺に囲まれた旧市街 (リュベック)



現存する多くの倉庫群 (ハンブルグ)



アルスター湖から見る景観が美しい



はじめに

今回はヨーロッパ大陸に戻り、北ドイツから北欧を訪れます。北ドイツではバルト海で繁栄を極めたハンザ同盟都市のリュベックとエルベ川河口のハンブルグ、およびそこから点在する島々を渡って北欧の玄関口であるデンマークの首都コペンハーゲンに向かうルートを紹介します。ドイツから北のこれらの地域である北欧は、いわゆる高福祉社会を目指して実現した国々が多く、訪れると人々が優しくゆったりとした雰囲気を感じさせてくれます。

1. ハンザ同盟で栄えた水辺都市、リュベック

12〜16世紀にかけて北ドイツを中心に大きな繁栄を誇ったハンザ同盟。その中心都市がリュベックでした。この同盟には内陸部の都市も参加し、ドイツにはエルベ川やライン川を始め河川・運河の水運が大きく貢献しました。その中でも、リュベックはバルト海に注ぐトラヴェ川の中州に広がる都市で、トラヴェ川とトラ

ヴェ運河に囲まれた旧市街は今も当時の栄光が随所に残り、世界遺産に登録され「ハンザの女王」とも呼ばれるほどです。



シンボルのホルステン門 (少し傾斜)

訪れるにはリュベック鉄道中央駅を降りて東に進み、橋を渡り旧市街のある島に入ります。まず、町のシンボルであるホルステン門が目に入ります。この門は防衛用に堅固に作られていて、あまりの重さに一部が地面に沈んでしまいうまく見ると全体が少し傾いています。

その他、市庁舎、数々の教会などハンザ同盟当時の名残を残す見所が点在し、また、数多くの水辺が整備され市民の憩いの場となっています。

2. 水辺が美しいドイツ最大の港町、ハンブルグ

ドイツ最大の港町であるハンブルグは、ドイツ南東部の古都ドレスデンを流れるエルベ川河口から100 km

入った所にあり、エルベ川に注ぎ込む支流のアルスター川の河口にあります。リュベック同様にハンザ同盟の中心的役割を果たし、現在はEU内ではオランダのロッテルダムに次ぐ第二の港湾規模を誇っています。

旧市街は昔から「港町」として商業が栄え、数多くの運河が流れている都市であり、町の運河にかかる多くの橋が景観を形成しています。現在、周りが公園・遊歩道となり市民の憩いの場となっているアルスター湖は、アルスター川をせき止めて造った人工の湖であります。

3. 列車に乗せたフェリーで半島の島々を渡る (ドイツからデンマークへ)

ドイツ北部の港町ハンブルグから北欧の国の一つデンマークの首都であるコペンハーゲンを鉄道で訪ねると、いくつかの島を渡る必要があります。まずこのルートを描いた時は、鉄道車両がどのように海峡を渡るのか分かりませんが、実際の体験してみても納得がいきました。列車はフェリー内部に乗り込み、乗客は降りて船上に移動します。天気

の良い時は、船上デッキは乗客にとって夏の絶好の日光浴タイムとなります。この船上から眺めるとフェリーがコペンハーゲンに近づくとにつれ、デンマークの海岸線には風力発電羽が数多く林立する風景を目にし、この国が自然エネルギーの導入に熱心であることがわかります。

おわりに

今回ご紹介した北ドイツや北欧は、訪れる観光客も少なく落ち着いた雰囲気を感じました。しかしその歴史は古く、ヴァイキングの襲来を6世紀に受けましたが、キリスト教の普及とともに自由都市としての交易が許され、ハンザ同盟の成立ともつながり繁栄を誇ってきました。このような歴史的背景から各所に古い建物が多く残され、自然環境とも調和を図りながら、落ち着いた雰囲気を感じさせる都市が多いように思います。特にこの感覚を起こさせる空間の形成には、河川や水辺(海岸・湖)が有効に寄与しているように思われます。

これからもわが国は、水辺空間にも配慮した都市の再生が有効であると感じます。



整備された水辺が点在している (リュベック)



すれ違う反対方向のフェリー



日光浴を楽しむ列車の乗客



海岸線に林立する風力発電羽 (デンマーク)

水害碑

— 水辺の石碑は語る —

「災害は忘れたころにやってくる」は、寺田寅彦氏の名言ですが、今年も東日本の各河川で同時多発型の水害が発生するなど、災害が頻繁に報道されています。しかし、ある一つの場所を取り上げると大きな災害はそれほど頻繁に起こるものではありません。そのために、災害をどのように後世に残すかの伝承は、昔から大きな課題でした。その手段として、各地に「災害碑」が数多く建立されています。

また、今年から国土地理院の地図に「自然災害伝承碑」の記号が追加されることになり、「わたしたちの先人はそのときの様子や教訓を石碑やモニュメントに刻み、後世の私たちに残してくれました。」(国土地理院HP)とその重要性が述べられています。



自然災害伝承碑
地図記号

「水が語るもの」では、近畿地方各地の水に関する水害碑の紹介を新シリーズとして開始することにいたしました。

水害碑には、

- ① 災害の状況や原因(被害者数・家屋などの被害)
 - ② 被害発生への反省や被害を避けるための工夫
 - ③ その後の復旧状況
- などが記載されるのが一般的です。さらに、被災者の供養や鎮魂のための言葉や被災者の名前が記載されている例も多くあります。

このように、水害碑は災害経験の伝承のために重要と考えられますが、一つ忘れてはならないことは、自然現象である災害の本質として過

去のものを上回る事が起こりうることです。特に、最近の地球温暖化に伴う気候変動により降雨が集中化・激甚化しており、過去の災害パターンが変化し災害が巨大化しています。過去の経験が絶対であると考えないことが肝要です。

19号では江戸時代末期に近畿地方の太平洋側を襲った、安政地震津波に関連する水害の碑を紹介いたします。数多くの碑が建立されていますが、大阪府内ものから始めます。

安政地震

〔安政元年(1854年)11月4日に安政東海地震、翌5日に安政南海地震が起き、伊豆から四国までの広範な地帯に死者数千人、倒壊家屋3万軒以上という被害をもたらした。〕(災害教訓の伝承に関する専門調査会報告「1854安政東海地震・安政南海地震」と報告され近畿地方では、被害が大きかった大阪府と和歌山県に多くの碑が残り、江戸時代から現在まで伝承の役に立っています。

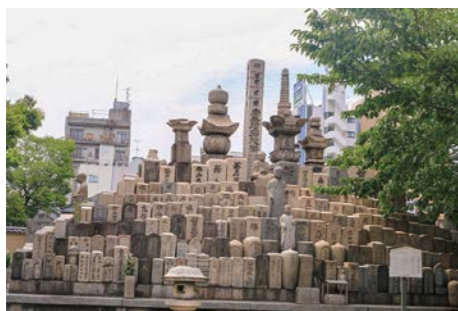


大地震両川口津波記念碑

安政南海地震津波による被害の特徴的なことは、市内での死者の大部分が地震の揺れのため河川内の小舟に逃れたのに、津波が安治川と木津川の両川口に侵入し、大型の廻船を市内の河川に押し上げ多くの人々を溺死させたことにあります。当時の大坂の町人は、過去の地震・津波の被災体験を生かすことができなかった経験を後世に伝えるために、現在の大正橋東詰に被災の翌年に石碑が建立されました。被害の状況と防災の教訓とともに「願くハ心あらん人、年々文字よミ安きやう、墨を入給うへし」と伝承の工夫が刻まれています。これを受けて、地元の方々によって、現在まで、毎年、地藏盆の前に墨入れが行われ、地藏盆の時に祭礼が実施されています。



参考文献：「大地震両川口津波記」記念誌 大阪市浪速区幸町三丁目西振興町会他、「安政南海地震津波の教訓」長尾 武



四天王寺安政地震津波碑

聖徳太子ゆかりの大阪の四天王寺の境内に建立されています。犠牲者の供養と災害の記憶を後世に伝えるために町人によって建立されたものです。「海鳴潮の干満みだれし時は早く津波の兆と知りて難をのかれ玉ふへし」と教訓が刻まれています。



地震津波横死者の供養石碑

こちらも聖徳太子のゆかりと伝えられ、幕末に創設された西国三十三カ所の再現で有名な大阪市生野区の舎利尊勝寺の門前にあります。当時の近辺の町人によって被災者の供養のために建立されたと伝えられています。



擁護壘

堺市にある安政地震災害に関する災害碑です。現在は大浜公園に移されていますが、当初は、被害復旧に関連した「御蔭山」に設立されました。堺では、大坂に比べ被害が比較的少なく、碑には、家屋が破壊されたものの、神社に避難して難を逃れたことや船への避難は津波に遭遇するので避けることなどの教訓が記され、堺の産土神への大地震から助かったことのお礼で締めくくられています。



現代の災害碑

津波・高潮ステーション

大地震両川口津波記念碑の設置場所からほど近い、大阪市西区に大阪府が防災拠点機能と啓発拠点として設置した施設です。4面に映写されるダイナミックな映像によって、包み込まれるような迫力をもって津波の恐ろしさを体感できる「ダイナキューブ」などによって、地震や津波の発生時の対応などが学べる入館無料の施設です。大阪近在だけでなく、海外や、関東・東北の学校などからの多くの人たちが来訪されています。一度、訪問してみませんか？(団体の場合は要予約) webサイト <http://www.pref.osaka.lg.jp/nishiosaka/tsunami/>



ダイナキューブ(津波災害体感シアター)

写真提供：大阪府

京都の水文化（その2）

江戸期の舟運と高瀬川が生み出す経済的価値

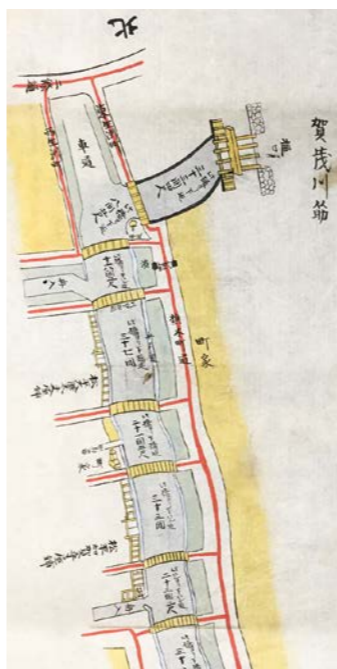
京都産業大学 現代社会学部 教授

鈴木康久

都市基盤の一つに交通網の整備が

あげられる。平安京の造成に際して、大内裏の両側に幅員が4丈（12m）の東西2本の「堀川」が整備された。堀川の水運については、『一遍上人絵伝』（1300年頃）などで知られるように木材等が筏で運搬されていた。朝廷が整備した「堀川」に対して、豪商である角倉家が徳川幕府の許可を得て整備したのが「保津川」と「高瀬川」である。他にも宇治川の開削も願いでたとの話が伝わるなど、角倉家が舟運の経済的価値に着目していたことが知れる。更に舟運は物流拠点を生み出し、水辺に町が形成されるなど、その効果は空間的な拡がりを見せる。京の都では、時代に応じて多くの水路が整備されており、河川価値を考える上で舟運は欠かすことができない。本号では、江戸期の物流の動脈ともいえる高瀬川を取り上げたい。

素庵親子が造った10・5kmの運河である。運河が掘られた理由は、京都大仏殿（現在の豊国神社）を再建するための用材が、鴨川の川筋を掘り直したことにある。鴨川の川筋を掘り直したことを「洛中洛外図屏風」（歴博D本など）に見ることが出来る。しかし、白河法王が「鴨川の水は意のままにならない」と嘆いたように、鴨川の堰は洪水で流されることも多く、安定的に資材を運ぶには適していなかった。そこで、了以親子は農業水路などを活用し、洪水の影響を受けない運河を整備した。その運河である「高瀬川」の様子が京都産業大学図書館が所有する『高瀬川筋明細図』（幅20cm、長さ360cm・下三栖村領から下流部欠損）で知ることができる。



鴨川から高瀬川への取水口「樋口」と「舟引道」の「濱」
【高瀬川筋明細図】（京都産業大学図書館蔵）

絵図には「船引道」や「濱」、橋町家」など15もの凡例が示されるだけでなく、周辺の大名屋敷が描かれる他、橋梁（51ヶ所）などの構造物と橋梁間の距離が示されている。その正確さから実測図と表現しても遜色のない詳細な絵図である。元号の標記はないが、「小堀敷馬御代官所」（在任期間・1754〜1789年）と長州藩邸「松平大善太夫屋敷」の表記から1783〜89年の間に描かれたと推察できる。

絵図を用いて、鴨川の取水口から高瀬川と鴨川の落合まで辿ってみる。鴨川の石積護岸に樋門が描かれている。当時のものは不明だが、現在も石造の樋門が取り込む水量を調整している。樋門から33間入ると橋があり「東生州町」、「車道」と記され、現在と同様に高瀬川と一之舟入がある。この取り入れ水路の区間は「川を上下する高瀬川が、平面交差で鴨川を横断する箇所（現在の九条松ノ木町、陶化橋上流）」

「洪水之節門樋を打小枝川筋江水落申候」と記されている。状況は言葉で表しにくく、絵図を見ていただくのが良い。絵図には高瀬川が運航できる水深を確保するために土囊を鴨川に並べている。その並べ方も川の流れを正面から受けられないように、アールをつけて斜めにする他、2ヶ所を意図的に切るなど川の掃流力を考慮している。高瀬川の運行のため江戸期にはこのような仕掛けがあったのかと驚くばかりである。

このような運河を整備することの経済効果が気になる。京都新聞社の特集記事「京近江の豪商列伝角倉了以・素案（下）」（2002年5月20日）に「なんと所得1日50両。完成後は全舟数百59隻を回航させ、舟賃



【四條高瀬川舟番所と湯水時の取水口「樋」】
【高瀬川筋明細図】（京都産業大学図書館蔵）

高瀬川で荷を運搬する情景
（絵葉書 明治40年から大正7年発行）



高瀬川に架かる橋梁の情景

とがわかる。筆者が知る限りで最も古い視覚資料である『四條河原風俗

のため、上がりと下りの時間帯を分けて、物資を運ぶ決まりがあった。口伝によると「舟が上がる時は、朝6時から7時頃に伏見を出て2時間もすると七条近くまで来る。木屋町沿いの舟入で荷を下ろす頃には昼時であった。下りの舟は、夕方になると半分の荷を積み込んで伏見へと向かった」という。多くの物資が濱や舟入で荷上げされ、京の都の人々の暮らしを支えていた。この区間は物資の集積拠点であり、高瀬川を中心に町が発展することとなった。

もう一つ興味を魅かれるのが舟引道である。二条から四条の間の舟引道は両岸にあり、四条と五条の間については左岸（東側）だけにある。五条から下流には舟引道の表記がない。そのため濱がないため高瀬川沿いの道を用いて舟を引いたことがわかる。

筆者が知る限りで最も古い視覚資料である『四條河原風俗

最後に誰もが注目する「賀茂川高瀬川此所落合」を紹介したい。高瀬川を上下する高瀬川が、平面交差で鴨川を横断する箇所（現在の九条松ノ木町、陶化橋上流）」

「洪水之節門樋を打小枝川筋江水落申候」と記されている。状況は言葉で表しにくく、絵図を見ていただくのが良い。絵図には高瀬川が運航できる水深を確保するために土囊を鴨川に並べている。その並べ方も川の流れを正面から受けられないように、アールをつけて斜めにする他、2ヶ所を意図的に切るなど川の掃流力を考慮している。高瀬川の運行のため江戸期にはこのような仕掛けがあったのかと驚くばかりである。

このような運河を整備することの経済効果が気になる。京都新聞社の特集記事「京近江の豪商列伝角倉了以・素案（下）」（2002年5月20日）に「なんと所得1日50両。完成後は全舟数百59隻を回航させ、舟賃



【鴨川と高瀬川の平面交差】
【高瀬川筋明細図】（京都産業大学図書館蔵）

流転する水都大阪の文学

評論家・文化プロデューサー 河内厚郎



田辺聖子の思い出

今年6月6日に亡くなった小説家の田辺聖子は、多くの分野のバイオニアとして活躍した作家であった。昭和39年（1964）に『感傷旅行』で芥川賞を受賞し、昭和62年（1987）には女性として初めて直木賞の選考委員に選ばれている。当然ながら故郷の大阪や関西を舞台にした作品は多く、今回、「田辺聖子が書いた河川」という仮題をいただいた。けれども、大阪市内の水路

は埋め立てられたりして、かなり風景が変わってしまった。

堂島川や土佐堀川にほど近い大阪・福島の田辺写真館は戦災で焼失。父親は戦後まもなく亡くなり、家族は武庫川のほとりに移り住んで、母は西宮市の水道局に勤め、生計を立てた。戦後、私の実家に水道の集金にやってきていた中年の女性が、田辺聖子の母、その人であった。後年、私が編集者となって、1990年代に大阪都市協会が発行していた季刊誌『SOFT』（これは本当によい



季刊誌 [SOFT]

雑誌だった）のインタビューを録りに、伊丹の田辺邸を訪れた際、母上の思い出話をすると、といっても当時まだ存命で元気なお婆さんだったが、お婆さんは「まあ」と驚いていたものだった。

そんなふうにして文豪・田辺聖子との交遊は始まった。彼女の母校、大阪樟蔭女子大学には「田辺聖子文学館」が併設され、田辺聖子と私の対談ビデオが流れている。

文学に登場する古墳時代

田辺聖子は、ユーモアと皮肉の利いた、小気味よいエッセイで、「現代の清少納言」などと呼ばれた。その場の雰囲気なんとなく落ち込んでいいる際には、陽気な顔をつくって一座を盛り上げる一方、皆が妙に浮かれていたりと、冷水をかけるといった皮肉な面もあった。もちろんその背景には王朝文学など古典の豊



大阪樟蔭女子大学 田辺聖子文学館

代を扱った歴史小説であり、発表當時から評判を呼んだ。

国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界遺産委員会で、大阪府の百舌鳥・古市古墳群の登録が正式に決まった。構成資産は、国最大の古墳・大山古墳（仁徳天皇陵古墳）や誉田山古墳（応神天皇陵古墳）をはじめ計49基。うち29基が、宮内庁が歴代天皇や皇族などの墓として管理する

陵墓にして、天皇家の祖先祭祀の場でもあり、「静安と尊厳を守る」などの理由から原則非公開となっている。構成資産の過半数を占める天皇家の陵墓については、登録後も宮内庁が管理することに変わりなく、立ち入り制限は続くと思われるが、宮内庁だけによる維持管理は限界に来ているとの見方も出ている。

もちろん登録はゴールではない。

倭の五王の事蹟

大阪府羽曳野市に開学した「はびきの市民大学」の学長を、市当局の理解と優秀なスタッフに支えられて私は務めている。入学志願者は羽曳野市民に限らず他府県からも通ってくる。四天王寺大学や大阪芸術大学、大阪大谷大学や阪南大学など、近隣



百舌鳥古墳群【写真提供：堺市】

国内最大の前方後円墳から、小さな円墳や方墳までが、日本列島の国家形成期の実像を映し出していることもあって、周辺住民の関心も高まりつつあり、ユネスコも地域コミュニティ参加を促すようになった。白石太郎・大阪府立近つ飛鳥博物館名誉館長は、非公開となっている事情にも理解を示しつつ、「例えば内濠の堤の上くらいまでなら公開することも可能ではないか。地元の自治体が協



LIC はびきの「はびきの市民大学」【写真提供：羽曳野市】

の大学と提携した講座も組んできた。当地での話題は、やはり百舌鳥・古市古墳群のユネスコ世界遺産登録が実現したことであろう。百舌鳥エリアは仁徳陵がある堺市内。羽曳野市から藤井寺市にかけての古市エリアには、古墳の盛り土や堆積で全国一の規模を誇る応神天皇陵（誉田山古墳）はじめ、小高い森が見えれば古墳というような土地柄であり、近鉄電車の軌道はそれらを迂回するように敷かれている。私が学長に就いてからも来目皇子（聖徳太子の弟君）の墓が発見されて話題になったりした。

飛行機で関西空港に降り立つたび、南大阪のランドマークである百舌鳥・古市の古墳を遠望しつつ、この空港島が前方後円墳の形をしていたら、関西ベイエリアにやってきたことが外国人観光客にも実感できるのでは、などと空想を楽しんでいる。

2月2日に百歳で亡くなった古代史学者の直木孝次郎は、古墳時代に台頭した勢力が、いわゆる倭の五王と呼ばれる王朝が、あらたに「河内政権」を打ち立てたとする論考を遺した（これには異説もあるが）。

仁徳天皇の父とされる応神天皇

は、第15代の天皇で、4～5世紀に実在したとされる。この時期、朝鮮半島の百済と関係が深まり、先進的な文物や新しい技術を持った渡来人がやって来た。王仁博士が文字をもたらしたり、また私の家のすぐそばに「染織発祥の地」があるのも（西宮市・染殿池）、応神天皇の時代（4世紀末頃か）の歴史の跡とされる。応神天皇の時代、百済から渡米したという王仁博士は、古代中国の書物『論語』十巻と『千字文』一卷をもたらし、わが国に漢字と儒教を伝えた人とされている。それまで文字というものを持たなかった（であろう）日本列島の人々は、漢字をアルファ



染織発祥の地（染殿池）

ベットのような表音文字として用いることにした。万葉仮名と呼ばれるのがこれで、ワープロで文字を転換させると面白いように出てくる「当て字」に似ている。そしてさらに「仮名」を発明することで、日本人は国語を飛躍的に発展させていくことになるのだが、それは後代の話。

淀川と大和川

応神の子、仁徳天皇の事蹟とされるものといえは治水・河川改修の歴史があげられる。河川を利用し、ときに洪水となつて荒れ狂う水を治めることは、昔から為政者の重要な課題であった。文献に見るわが国最初の治水工事は、『日本書紀』仁徳天皇の条に「宮北の郊原を掘りて、南の水を引きて以て茨田堤を築く。」と記されている。ここにいう「宮」とは仁徳天皇の宮居した、難波の高津宮、「南の水」とは大和川のこと。それに対し「北の河」と出てくる表記は、淀川をさすと理解されている。現在の門真市・寝屋川市・守口市にまたがる茨田堤を築いた目的は、上町台地に南北二カ所の堀割工事をおこない、滞水を海に放出すること



茨田堤の碑

で河内湖の陸地化をはかったものだと考えられている。淀川の水位上昇に耐えるため、堤防を築くことで農地を守ろうとしたのである。工事は難行した。洪水による二カ所の切れ目が見つからないのを心配する仁徳天皇の夢に「武蔵人強頸と河内人茨連杉子の二人を川の神に供えれば堤はできあがる」とお告げがあり、武蔵の強頸が泣く泣く人柱となり、杉子は機転を働かせて人柱にならずにすんだと伝えられる。

仁徳11年（323）に完成した堤の、二カ所の切れ目は絶間と称された。のちに絶間がなまり、現在の太間（寝屋川市）という地名になったといわれている。太間の淀川堤防上には「茨田堤の石碑」が建てられている

る。門真市の堤根神社境内や大和（寝屋川市）墓地の北方には堤の跡が今もわずかに残り、古川に沿った住宅地の中の細い道も茨田堤の跡といわれている。

同じく『日本書紀』仁徳天皇の条に記された「難波の堀江」とは、現在の大阪市内を貫流する大川（旧淀川）のことであり、上町台地の北にひろがる、砂が堆積した州（天満砂堆）を東西に横切る形で掘られた水路だといふふうに考えられている。現在の大阪市内の堀江という地名とはことなる。

仁徳天皇が八田之若郎女を側室として宮中へ入れたことに、葛城氏出身の皇后・磐之媛命が怒って故郷の山城（京都府南部）へ帰るくだが、「其の御船を引き避きて、堀江に沂り、川の随に山代に上り幸でましき（船を綱で引いて、堀江をさかのぼり、山代川の川筋に沿って上がった）」と『日本書紀』に出てくる。これが、難波の堀江を船で通り、淀川（山代川）に入つて、船を引いて上がったことを著す記述だとすると、当時から淀川では船の航行がおこなわれていたことになる。その折、

皇后が嫉妬のあまり船から葉を投げ捨てたところが野里渡（大阪市西淀川区）だったと、江戸時代の『撰津名所図会』は記しているが、真偽のほどはわからない。



野里の渡し跡

蔭女子大学のある東大阪市内を歩いていると、南から北へ流れる小川が何本も目につく。これは北流する旧大和川の水系が今も残っているためであろう。江戸時代の初期まで、奈良盆地の水を集めて河内平野に入っていた大和川は、金剛・葛城山系から流れてくる石川と合流して上町台地の北側に流れこみ、淀川と合流していた（そのため現在の天満橋あたりの水量はもっと大きかった）。その流路は低地帯のため、沿岸の民衆は河川の氾濫に悩まされ、元和から元禄までの70年間にも12回の洪水を数えた。古く平安初期には、桓武天皇の命により神崎川を開削した和気清麻呂に基き、大和川付け替えの試みもおこなわれたが、上町台地の岩盤の固さのため、つけかえは実現しなかった。河堀口という地名だけが残っている。その歴史を今に伝える

幕府から正式に大和川の付け替えの命が出されたのは元禄16年（1703）のこと。石川との合流点（柏原市）から大阪湾まで、長さ約14・3キロ、幅約180メートルの流路が宝永元年（1704）に完成する。淀川と大和川は分離して、古代から人々を悩ませつづけた淀川の水量はようやく安定することになった。

作家たちの思い出

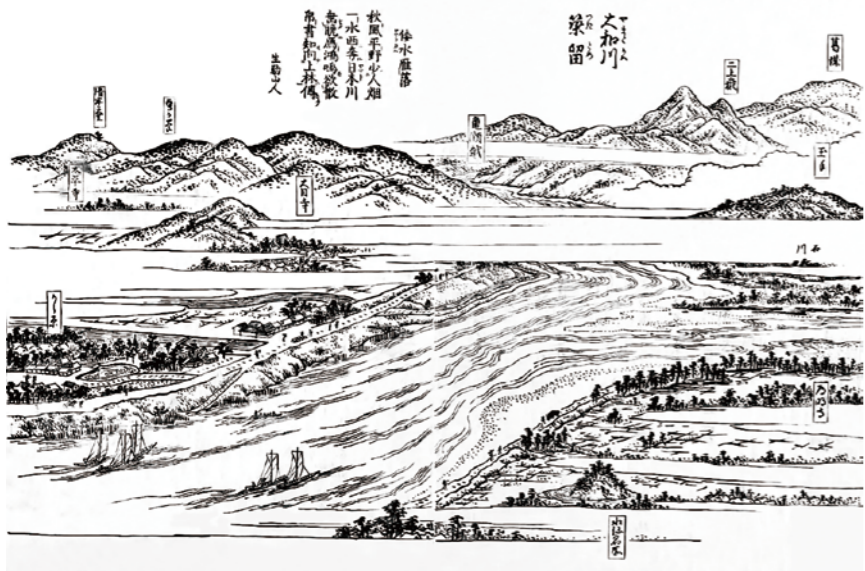
『うたかた』といった田辺聖子の小説のタイトルには、そんな流転する水都大阪の歴史の残像がある。有為転変をくり返す無常のリズムとあったものがある。私は田辺聖子と話しているとき、いつもそうした感慨を抱いた。

平成20年（2008）、田辺聖子の文化勲章を祝うパーティには、瀬戸内寂聴・林真理子・小川洋子・宮本輝、故・藤本義一らベテラン作家たちが伊丹のホテルに集まった。私も招かれ、楽しい一夕であった。それがお聖さんとの最後の歓談となつてしまった。司会業でも名を馳せた義一ちゃんとも、この世の別れとなつてしまった。

大規模な河川の付け替え

それでも、『日本書紀』仁徳14年の条に、猪甘津の橋が架けられたとあるのが、わが国最古の「橋」の記録であり、これは小橋または鶴が橋（鶴の橋）とも呼ばれた。現在の大阪市生野区であるが、小橋や鶴橋といった往時をしのばせる地名が大阪市内には今も残っている。

ところで、大阪市生野区や大阪樟



築留（大和川付け替え地点）「河内名所図会」【資料提供：国立国会図書館デジタルコレクション】

台風5313号、5907号、5915号と淀川の大洪水

1. 昭和34年台風7号(台風5907号)

【京都府地方気象台および近畿地建(以下地建)】京都府地方気象台では8月13日夕刻府下全域に大雨警報を出し、続いて夜8時20分府下南部に洪水警報を発令、また大阪気象台と地建も夜10時15分淀川洪水警報を出した。

また気象庁は、13日夕方までは台風7号は14日昼頃上陸と予想していたがその後スピードを早め、14日早朝東海東部から関東地方にかけて上陸と予報を修正。中心が上陸すると予想される地方は、伊豆半島を中心として東海東部から関東地方にかけてで、時刻は午前6時から7時頃、中心気圧は965mbとみられる。

【気象庁14日午前11時30分発表】台風7号は14日午前6時半ごろ静岡県富士川川口に上陸、山梨、長野、新潟を通り夕刻には日本海北部に達する見込み。

【京都新聞より】
京滋でも集中豪雨禍
・12日午後から13日朝にかけて湖国を襲った大雨は柏原260mm、伊吹200mmのほか山間部で約220mm、平地で190mmの雨量をみた。この

豪雨で行方不明一人が出た。また湖国から岐阜、三重方面への交通は完全にストップしている。京都府下でも由良川、木津川などが増水、ことに由良川の音無瀬橋付近では警戒水位4mに達した。このため各地に道路、田畑の被害が出た。

・13日午前零時すぎ、滋賀県甲賀郡土山町の国道1号線の白川橋東詰から野洲川に転落、約50m流された名古屋市中区丸田町、新日本トラックの森田武夫運転手(27歳)は正午現在まだ行方不明で、絶望的となった。田辺昭雄助手(24歳)は約2km流され岩室橋近くの三角洲にたどりついて助かった。前夜からの増水で白川橋東詰約5mが崩れ落ち、その直後通りあわせて、転落したもの。

・京北町周山地区は午後八時ごろ弓削川がはんらんし、通信が途絶。孤立状態になった。14日午前1時やつと園部中継で本社は周山校と連絡をとることができたが同校宿直の牧先生は途切れ勝ちながら現地の生々しい模様を伝えていた。

・午後7時ごろ停電、間もなく出水のおそれありということで町全体がタタミを2階に運び上げるなど退避し、200戸が床上、400戸が床下浸水した。このため伏見府警機動隊、地元水防分団約百人が出動、和船四隻を使い、住民たちを付近の高台にある月橋院、桃山学園などへ避難させた。地元民たちは「10年前から宇治川の右岸に堤防を作るよう建設省に陳情しているが効果がない。」とふんまをぶちまけている。

一方、宇治川の氾濫で同川の右岸沿いにある京阪電鉄宇治線も観月橋—木幡間の約5000mが冠水して完全にストップ、復旧の見通しはたないという。

3. 昭和28年から34年までの5洪水の流量と水位

昭和28年の5313号台風による淀川の破堤、氾濫状況は本誌第17号、18号に掲載していますので、そちらも併せてご覧下さい。

昭和28年の5313号台風による洪水は今までにない大きなものでしたから、淀川水系全般にわたる治水対策について昭和29年に「淀川水系改修基本計画」が決定されました。その内容は、基準地点枚方における基本高水のピーク流量を8650m³/秒とし、このうち1700m³/秒を上流

の準備をはじめた。それでも町民は「まさか？」という気持ちが強かったが、8時ごろからにわかになが水がふえ出し、中心街はまたたく間に200戸余りが浸水、そのうち大部分が軒下あたりまで水没した。電話もそのころから不通となった。周山校には現在約20人が避難しており、高台にある学校からみた町の情景は黒々とした池が暗がり大きくひろがっているよう。被害は相当大きい模様。

2. 昭和34年台風15号(台風5915号、伊勢湾台風とも呼ばれる)

【気象庁9月26日午前11時30分発表】台風15号は26日朝9時には潮岬の南南西420kmの北緯29度50分、東経134度30分であり、毎時33kmの速さで北に進んでいる。中心の気圧は920mb、中心付近の最大風速は60m、半径400km以内の東側と300km以内の西側では25m以上の暴風雨となっている。台風は今後次第に速度を早めながら進路を北から北北東に変え今夜伊半島から四国東部に接近し、今夜これらの地方に上陸する気配が濃厚になった。なお幾分進路が東に片寄り東海地方に

接近するおそれもある。

【京都新聞報道より】

潮岬上空通過—台風の目
・台風15号は26日午後6時15分潮岬に上陸した。この瞬間、潮岬測候所の気圧計は929.7mbを記録、48.5mだった風速も14mに落ちこの直後潮岬上空は台風の目にはいった。

【京都新聞報道より】

ドロ海と化した笠置町
・26日午後7時、木津川は早くも笠置大橋付近で警戒水位5mを4mもオーバー、同夜10時過ぎには2倍の10mを突破、増水した木津川は町の中に滝となって流れ込んだため、南、北笠置、上、下有市など同町700戸(3350人)のうち半数に近い約300戸(1100余人)が、アツという間に浸水、被災者たちのほとんどが毛布一枚を持ち、腰まで濁流につかりながら高台の小学校、公民館などに逃げるのが精一ぱいだった。
夜が明けるにしたがい、家を流し、ほしいままに荒れ狂った濁流も急激に減りはじめた。避難者の収容所となった笠置校では、被災者たちがさめやらぬ恐怖に、たがいに家族がよりそい、わずかに持ち出した夏ブト

表-1 5洪水の最大流量(m³/s)

洪水名	加茂	宇治(向島)	羽束師	枚方
昭和28.9	5800	1780	2700	7800(破堤あり)
31.9	3850	670	815	4610
33.8	3650	525	790	4030
34.8	3900	1270	2500	6800
34.9	6200	885	1700	7200

表-2 5洪水の最高水位(m)

洪水名	加茂	宇治(向島)	羽束師	枚方	鳥居川
昭和28.9	25日22時 7.70	25日22時 4.72	25日23時 6.38	25日23時 6.97	27日18時 1.01
31.9	27日13時 5.88	27日19時 2.89	27日18時 4.02	27日19時 5.49	28日10時 0.45
33.8	26日3時 5.45	26日9時 2.63	26日9時 3.82	26日9時 5.07	27日4時 0.48
34.8	14日7時 5.65	14日11時 4.43	14日10時 6.15	14日12時 6.50	15日3時 1.00
34.9	27日0時 8.00	27日5時 4.14	27日6時 5.63	27日5時 6.69	27日16時 0.85

た宇治川右岸の伏見区桃山町泰長老、本田上野、伊賀、六地藏付近の山科街道筋は宇治川増水で川が氾濫、また水びた

ダム群で調節し、計画高水流量を6950m³/秒とします。また宇治川、木津川、桂川の計画高水流量はそれぞれ900m³/秒、4650m³/秒、2780m³/秒とし、この計画に基づき天ヶ瀬ダムおよび高山ダムの建設による洪水調節、瀬田川の浚渫および洗堰の改造による琵琶湖沿岸地域の水害の軽減等を行うことにしました。



瀬田川洗堰(国土交通省琵琶湖河川事務所蔵)

しかし、ダム、洗堰の改造などには時間がかかりますので、取りあえずは現洗堰により琵琶湖水位0mで600m³/秒、+1mで900m³/秒を達成するとともに、浚渫を併せ施工することにしました。

4. 新洗堰建設に向けての助走

(1) 野口勇二郎の登場

明治43年度から瀬田川左岸道馬ヶ島に「瀬田川看守場」が設置され、昭和16年6月から7代目所長として



(a) 江戸時代(琵琶湖治水沿革誌より)



(b) 明治25年(国土地理院蔵)



(c) 大正11年(国土地理院蔵)



(d) 昭和23年(米軍撮影、国土地理院蔵)

図-1 大戸川合流点付近瀬田川の移り変わり

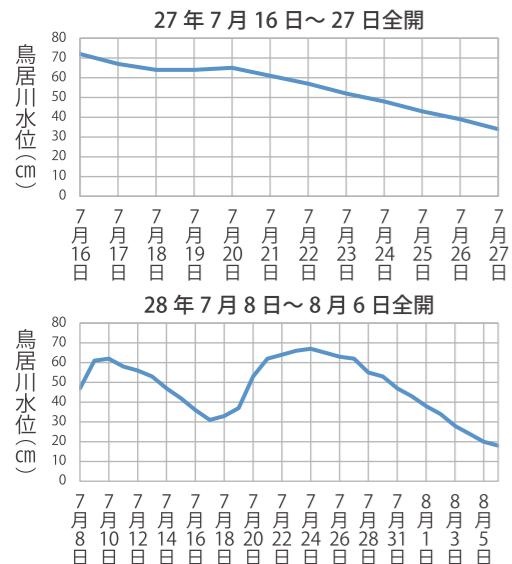


図-3 昭和27年と28年の瀬田川洗堰全開調査で得られた琵琶湖の水位低下曲線

より求めますと図-3上図の7月20日〜27日の8点からは勾配マイナス4・40が得られます。同様に、下図の7月10日〜7月17日までの8点と7月27日〜8月6日までの11点からは勾配マイナス4・464とマイナス4・491が得られます。そしてこれら3直線の勾配を平均するとマイナス4・465となります。

中森寛三が、また昭和18年7月からは「瀬田川洗堰監視所」となり、中森寛三の後昭和28年6月からは8代目所長として野口勇二郎が着任しました。このとき野口は既に「老朽化して時代遅れとなった洗堰を新しく造り直すように。」との内示を受けての着任でした。

野口の「琵琶湖及び洗堰についての断片的話題」によりますと「長沢忠氏は、明治25年東京工部大学校土木科を卒業後大阪土木監督署に勤めておられた。明治29年の水害の後、瀬田川に堰を新設するために欧米への出張を命じられ、満1年各国の大きな堰を視察して来られた。特にオランダに深く学ばれたようである。帰国してすぐ洗堰の設計にとりかかれ、明治33年に工事に着手された。

長沢氏は堰の築造に伴う大日山の岩盤掘削を指揮しておられる途中あやまって岩から落ち、腹部を強打し脚が跛となり、これがもとで明治35年30才にも満たぬ若さで堰の完成も見ずに世を去られた。新洗堰を設計した長沢氏とは期せずして跛仲間であったことはまことに不思議なご縁

であった。」と長沢が手塩にかけて設計した洗堰をいとおしむ野口の思いが偲べれます。

沖野忠雄設計の洗堰の堰桁敷高と長沢設計の堰桁敷高を比べると、長沢の設計の方が3・27尺(0・99m)低くなっています。洗堰の通水門幅は12尺(3・636m)ですから、長沢設計の通水門断面積の方が1門当たり3・6m²大きいことになり、琵琶湖水位を早く下げたいと思ったときには、そこに嵌めてある堰桁を全て引き上げればより速やかに琵琶湖水位を下げる事が出来るという利点があったにも拘わらず、

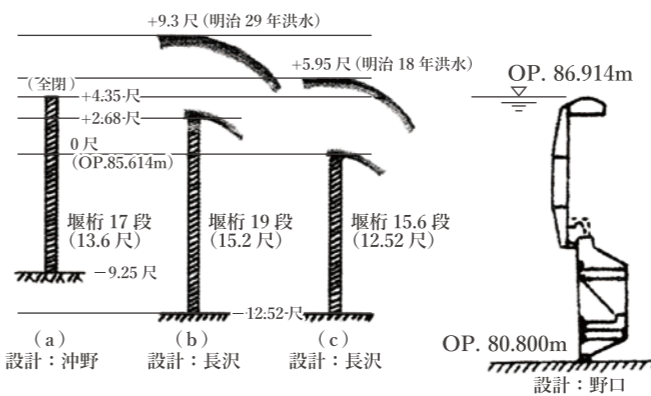


図-2 沖野、長沢および野口の設計による洗堰通水断面図

以上の結果から、洗堰を全開すると琵琶湖の水位は24時間に4・465cmずつ低下し、琵琶湖(面積717・2km²)からは371m³/秒の水が流れ出ていたということが分かりました。

野口が昭和28年6月に洗堰監視所に着任したその2か月後に、淀川史上最大と言われる5313号台風が来襲しました。そして9月25日22時10分に宇治川左岸堤が京都市伏見区向島大黒で破堤し、下流三川合流点からの逆流水が破堤口から堤内に流れ込みました。翌日の26日12時頃には宇治川三栖地点の水位と氾濫水位がほぼ同じ水位 OP15・28m となり、宇治川からの流入が止まりました。

そこで次は、御幸橋の下で氾濫水を自然排水しつつ、決壊口を仮締切堤により締切って新たな流入水を

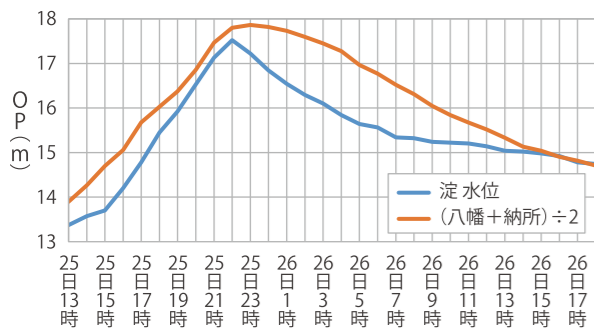


図-4 三川合流点の水位変化(台風5313号の場合)

そして最後まで残されていた幅50m、深さ3・5mの仮締切流入口の堰き止めも完了。この封鎖成功の7時間後、宇治川水面と堤内水面との差が早くも30cmつきました。

図-4は、淀水位の間変化と八幡、納所水位の算術平均値をグラ

「淀川治水史(琵琶湖関係) 淀川工事事務所」によりますと「定期的には隔日に洗堰上流2km寺辺町地先で竹浮子または機械で観測、臨時では堰

ささらに運の好い事には、28年7月にも洗堰全開の機会がやってきました。その上また9月には5313号台風という未曾有の洪水もやって来ました。

27年、28年の洗堰全開調査からは、次のような結果が得られました。

この2回の調査結果の中で、琵琶湖水位が直線状に低下している区間を選んでその低下勾配を最小自乗法により求めますと図-3上図の7月20日〜27日の8点からは勾配マイナス4・40が得られます。同様に、下図の7月10日〜7月17日までの8点と7月27日〜8月6日までの11点からは勾配マイナス4・464とマイナス4・491が得られます。そしてこれら3直線の勾配を平均するとマイナス4・465となります。

野口が昭和28年6月に洗堰監視所に着任したその2か月後に、淀川史上最大と言われる5313号台風が来襲しました。そして9月25日22時10分に宇治川左岸堤が京都市伏見区向島大黒で破堤し、下流三川合流点からの逆流水が破堤口から堤内に流れ込みました。翌日の26日12時頃には宇治川三栖地点の水位と氾濫水位がほぼ同じ水位 OP15・28m となり、宇治川からの流入が止まりました。

そこで次は、御幸橋の下で氾濫水を自然排水しつつ、決壊口を仮締切堤により締切って新たな流入水を

くい止め、三川合流点水位が下がり次第洗堰を全開するという段取りについて、淀川工事事務所と瀬田川洗堰監視所の間で話し合いがもたれ、宇治川決壊口の仮締切高さは OP14・5m、決壊口仮締切工事は9月27日夕刻から10月2日迄、瀬田川洗堰全開作業は10月2日8時半から開始と決められました。

9月27日夕刻から連日アーク灯や松明をつけて地元消防団、青年団など約600人が徹夜で敢行したので、10月1日19時30分に至り、遂に全長450m、4200本を超える杭打ちを終了、引き続き土嚢積みも徹夜で行い、約25000俵を投じて濁水の堰き止めが2日2時10分に完了、

野口はこの設計変更を高く評価しており、後年、野口の設計した新洗堰のゲート敷高も長沢の設計敷高より更に1m下げられています。

(2) 長沢設計の堰桁4段10門分が石桁に替わっていた

大正4年〜6年頃の内務大阪土木出張所長は青木元五郎でした。大阪土木出張所の出先である瀬田川洗堰看守場主任は佐野泰三、下田上砂防工営所主任は井上清太郎、棚倉砂防工場主任は夏川省五でした。

大正4年頃、誰かは分かりませんが、青木所長の所に「毛馬洗堰に使うから瀬田川の堰桁と同じものが40本欲しい。」と依頼してきました。「毛馬洗堰の堰桁と瀬田川洗堰の堰桁は太さも寸法も同じだから、山から松か松でも切ってきて作れば簡単だろう?」と考えての依頼だったようですがとんでもありません。

南山城の山々も、田上の山々も、デレーケ(明治34年帰国)や市川義方(京都府から出向)、井上清太郎らが生涯を賭して砂防、植林に取り組んできた山々です。今更、洗堰のためとはいえ貴重な松や松をたとえ一本でも切らせてくれるはずはありません。青木所長には部下の気持がよく分かります。

所長は困り果てた挙句、瀬田川洗堰の左岸寄りの2号水門から11号水門まで10門の下部4本の木桁40本を石桁10枚(厚さ約8寸、幅は戸溝含めて14尺、高さ約97cm)に入れ替えて、木桁40本を毛馬に運びました。「瀬田川洗堰堰桁配置表」には「大正6年5月9日石桁10(2-11)入換」との記録が残っています。その後、昭和27年に野口が洗堰を始めて全開したとき、木桁40本相当の石桁は残したままとなりましたから、「瀬田川洗堰堰桁配置表」には止むを得ず桁40本と記しておくことになりました。

(3) 昭和25年頃の瀬田川の流量観測

「淀川治水史(琵琶湖関係) 淀川工事事務所」によりますと「定期的には隔日に洗堰上流2km寺辺町地先で竹浮子または機械で観測、臨時では堰

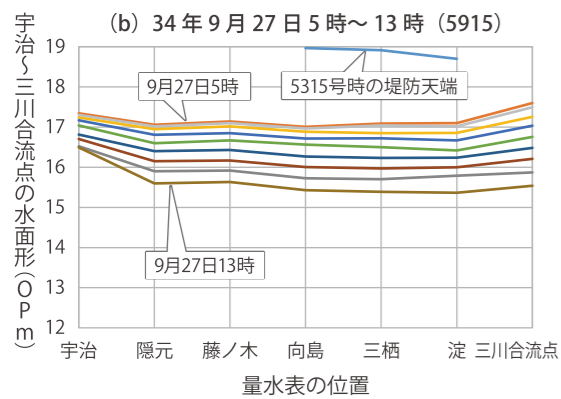
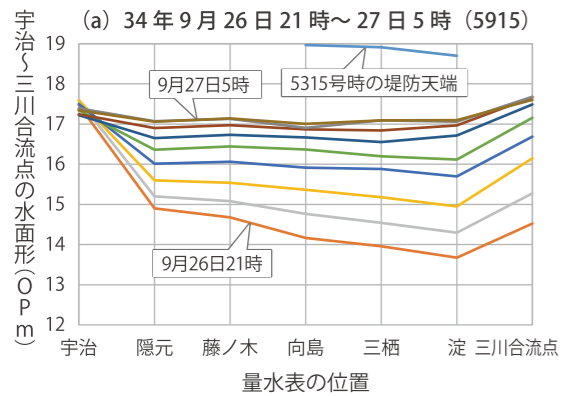


図-9 宇治から三川合流点迄の水面形の時間変化 (台風 5915 号)

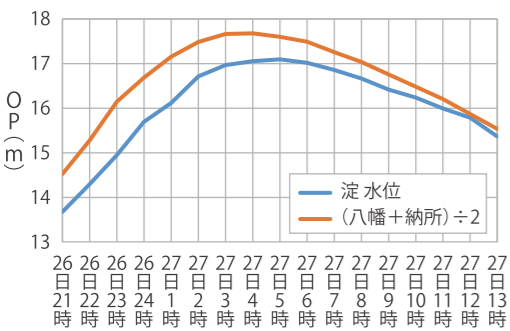


図-10 三川合流点の水位変化 (台風 5915 号)

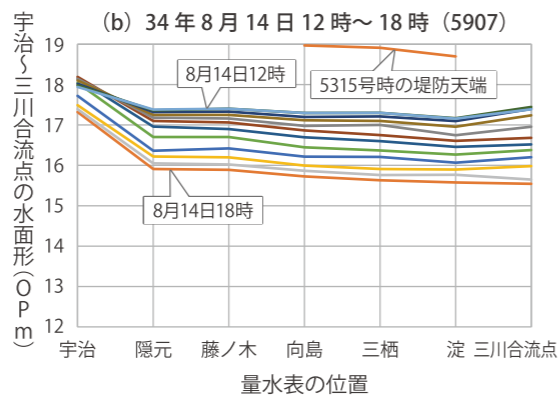
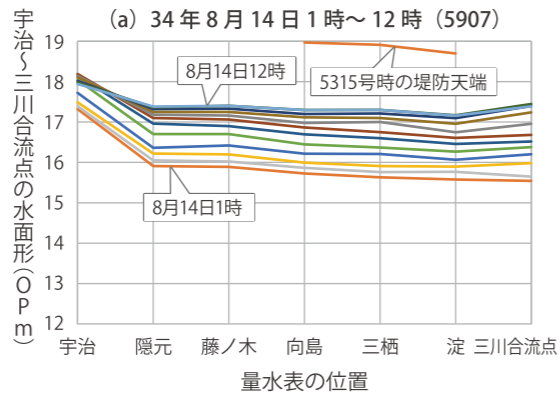


図-7 宇治から三川合流点迄の水面形の時間変化 (台風 5907 号)

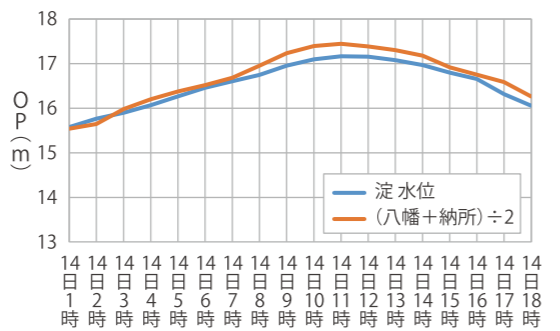


図-8 三川合流点の水位変化 (台風 5907 号)

昭和40年に天ヶ瀬ダムが完成し、2000万トンの洪水調節容量を有することになりましたが、その内の1000万トンは夏季制限水位により、残り1000万トンは予備放流によりそれぞれ確保することとなっています。天ヶ瀬ダムに期待される治水効果としては、第1に直下流宇治川堤防の越流防止、第2に淀川本川堤防(基準点枚方)の越流防止ですが、天ヶ瀬ダムにこれらの機能を最大限

発揮するよう求めるとすれば次のようなダム操作をすることが肝要です。
1. 予備放流は早めに済ませ、予備放流水を宇治川河道に滞留させないこと。
2. 天ヶ瀬ダム流入水はピークを挟む前後をナベ底カットし、ダム放流水をできるだけ宇治川河道に滞留させないこと。
3. 上記1、2の配慮により、向島～淀の宇治川河道に三川合流点からの逆流水をできるだけ呼び込むこと。
4. 天ヶ瀬ダムの貯留水1000万トンの放流と琵琶湖からの放流は、三川合流点の水位が低下してから行うこと。
最後に、宇治川の自然の洪水調節機能を一層増進し、かつ桂川の納所、羽束師付近の洪水の滞留を解消するには、三川合流の付け替えを行うことが有効と思われます。現状では、上流から見て左が木津川、桜並木の導流堤、宇治川、右支川桂川となっていますが、この組み合わせを変更して左を木津川、次を宇治川、導流堤、右支川を桂川とすることにより、木津川と宇治川が一体的に機能するように改善され、桂川の従来の滞留が解消されると思います。

まずと宇治川の水位は14日1時から14日12時迄上昇を続け、それ以後は下降していることが分かります。従って、1時から12時までには宇治川の河道内で河水の貯留が行われており、

その後12時以降は貯留水の放流が行われているという事が分かります。
(3) 5915号台風時の宇治川の洪水調節機能
5915号台風では、三川合流点

からの逆流貯留とその貯留水の放流は(2)の場合より一層顕著です。
8. 天ヶ瀬ダムの洪水調節機能を最大限発揮させるためには

294m³/秒しか流れませんでした。昭和33年6月1日、瀬田川洗堰管理所は瀬田川洗堰工事々務所となり、野口が工事事務所の初代所長となり、瀬田川の浚渫、新洗堰の設計と洗堰の本体工事に切り掛かり、昭和36年初めには新瀬田川洗堰が竣工しました。野口所長は新堰竣工より一足早く、昭和35年5月に東京都工事事務所に転出しました。
新洗堰では琵琶湖0mで800m³/秒、+1.4mで1200m³/秒、迎洪水位はマイナス30cm、瀬田川の洗堰上流では河床掘削を、下流部では掘削幅をそれぞれ実施して疎通能力を確保することとされました。

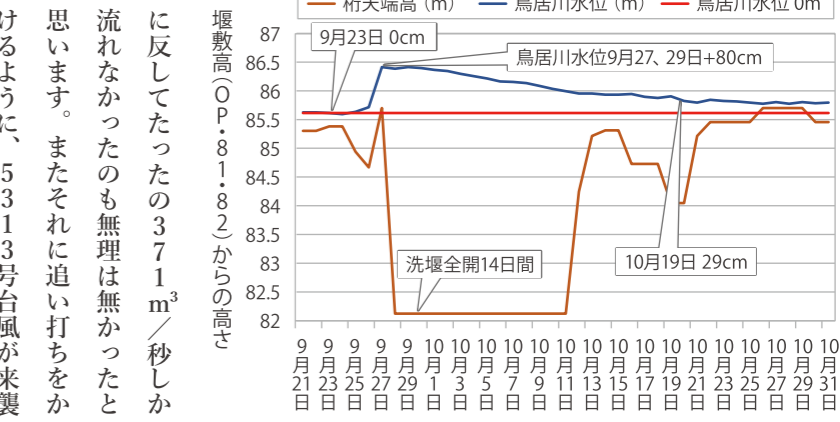
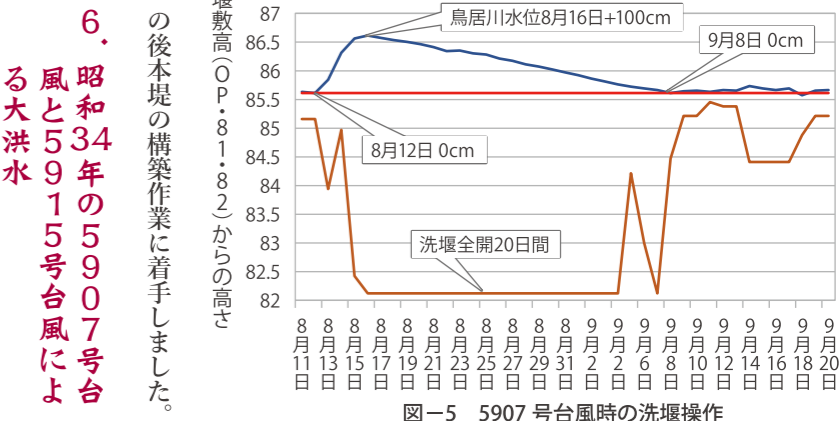
一方洗堰の方では10月2日8時半から全開作業を一齐に開始しました。地建は、洗堰全開による下流への影響はないとみていましたが、3日午後くらいから宇治川の水位が次第に上がり、3日18時頃には15cmも高まり、土囊の下約50cmに迫ったため、地元は「締め切りを少しでも高く」と引き続き約300名が居残り、地建も地元と一緒になって土囊を引き締める工事を10月15日頃まで続け、そ

昭和29年に決まった淀川水系改修基本計画では、瀬田川は琵琶湖水位0mで600m³/秒、+1mで900m³/秒、宇治川は900m³/秒と決められていましたが、図1(d)の昭和23年の大戸川合流点の写真を見ますと、戦中戦後は浚渫などが回っていないのは明らかです。従って、昭和27年に野口が瀬田川洗堰の下4段の堰桁を始めて開けて洗堰の全開放流量を測定したときには期待

昭和34年には、5907号台風と5915号台風が続いてやって来ましたが、図15、6から洗堰全開時の放流量を求めると、前と同様に5907号台風では琵琶湖水位は+1mまで上がり、瀬田川洗堰の全開放流量は369m³/秒、5915号台風では、5313号台風の置き土産を抱え込んだせいか、洗堰全開でも

7. 宇治川の洪水調節機能
(1) 5313号台風時の宇治川左岸堤破堤による淀川本川堤への影響
宇治川では破堤と同時に木津川と桂川からの逆流が26日12時頃迄続き、その結果淀川の最高水位は前日の23時15分の水位6.97mにとどまりました。
(2) 5907号台風時の宇治川の洪水調節機能
5907号台風では宇治川の破堤はありませんでしたが、図17を見

フにしたもので、25日22時10分に向島大黒で破堤した瞬間から八幡納所、淀からの逆流が破堤口へと向かったことを示しています。
図4には9月26日18時までしか示されていませんので、9月30日の水位も記しておきますと、9月30日18時の淀水位はOP12:44.2m、同時刻の八幡水位は12.215m、納所水位は11.819mです。したがって八幡水位と納所水位を平均すると丁度OP12:0mとなり、決壊口仮締切高さはOP14.5mですから、その差は2.5mあります。これだけあれば琵琶湖の全開流量約400m³/秒は十分流れると判断されました。



6. 昭和34年の5907号台風と5915号台風による大洪水
昭和29年に決まった淀川水系改修基本計画では、瀬田川は琵琶湖水位0mで600m³/秒、+1mで900m³/秒と決められていましたが、図1(d)の昭和23年の大戸川合流点の写真を見ますと、戦中戦後は浚渫などが回っていないのは明らかです。従って、昭和27年に野口が瀬田川洗堰の下4段の堰桁を始めて開けて洗堰の全開放流量を測定したときには期待

水都大阪と幻の大阪万国技館(11)

水都の会城北川プロジェクト(代表 藤井 薫)



朝日劇場【資料提供:橋本土地興行(株)】

朝日劇場と書かれた立派な建物の奥に、初代の通天閣が見えます。明治36年、大阪で開催された第5回内国勧業博覧会の跡地に計画された「新世界」です。

実は、現在も営業されているこの劇場の創設者は相撲の親方でした。しかも劇場だけでなく新世界の街づくり、国技館建設に縦横無人の活躍をします。大阪国技館開館百周年にあたる本年、今回はその人物「朝日山」と「国技館」の謎に迫っていきます。



第5回内国勧業博覧会俯瞰図【資料協力:(株)乃村工務社】

内国勧業博覧会の開催と「新世界」

明治36年、大阪天王寺で第5回内国勧業博覧会(以下「内国博」という)が開催されました。敷地約10万坪、入場者数約530万人にも及ぶ明治政府主催の最後にして最大のこの博覧会は、西欧諸国の参加も得た事実上、我が国初の万国博覧会でした。

大成功に終わった内国博ですが、関係者が常に頭を悩ませてきたのが会場の跡地利用問題でした。

閉幕直後に勃発した日露戦争の際、一時陸軍病院等に利用された後、明治42年になり、ようやく跡地の東半分約6万坪が天王寺公園に、西半分約4万坪は明治44年に大阪財界が設立した大阪土地建物(株)が借り受け、



新世界のルナパークに設けられたロープウェイ

先駆けともなります)

さらに明治43年には、先にご紹介した自らの名を冠した大衆演劇場「朝日劇場」の前身を新世界に開業します。(朝日劇場の廻り舞台は、その地下で部屋の若手力士が人力で押して廻っていたとのことです。)

当時、大阪土地建物(株)では内国博跡地とはいえ、辺鄙な郊外に造られる「新世界」に客を呼ぶ方策を模索していました。一方、両国国技館のある東京と異なり、毎年のように場所を変え、仮設で興行していた朝日山率いる大阪相撲協会の悲願は、国技館の建設でした。ここに両者の利害が一致。新世界に国技館の建設計画が組み込まれます。

明治45年7月、新世界が開業。大阪新名所として市民より熱狂的に歓迎されます。しかし、好事魔多し。同月30日、明治天皇が崩御されます。

朝日山の奮闘とその死

賑々しく開業した新世界ですが、一転、自粛ムードで閑散となります。経営が行き詰った会社は大阪市への納付金の支

ニューヨークのコンニアイルランドを模したルナパークという遊園地など各種行楽施設が造られます。

明治45年には通天閣(初代)も建設。劇場や映画館、仮設興行小屋、ロープウェイやラジウム温泉などの娯楽施設が林立する大阪の一大歓楽街「新世界」が誕生します。

第12代朝日山四郎右衛門



第12代朝日山四郎右衛門

明治元年、大阪天王寺生まれの第12代朝日山四郎右衛門(以下、「朝日山」という)は18歳で大阪相撲の朝日山に入門。幕内に進みますが、明治28年、西前頭8枚目の時に親方が急死し、28歳で引退。朝日山部屋を継承します。

これからは朝日山の本領発揮。専門の興行師がいる芝居とは異なり、当時、相撲では部屋の親方が勧進元となりました。朝日山には興行師として並外れた才能があったのです。しかし、それにしてもなぜ、相撲部屋の親方が劇場を経営することになったのでしょうか?不思議です。



東西合併相撲(大正2年3月7日 大阪毎日新聞) 左:横綱 大木戸(大阪)、右:横綱 常陸山(東京)

実は、華族や財閥企業など数多くの後援者がいた東京相撲と異なり、払いにも窮し、2期計画であった国技館の建設も中止されます。

朝日山は建設予定地で再度、東西合併相撲を敢行。閑散とした新世界の活性化に一役買うと同時に、国技館建設の再考を求めますが、結局計画は白紙に戻されてしまいます。

しかし、こんなことで挫ける朝日山ではありません。今度は第1次世界大戦の好況で大儲けした「鉄成金」と言われた鉄鋼業者達に建設資金の出資を持ち掛け、協力を得ます。他方、朝日山は明治45年のミナミの大火で焼け出され、行き場のなかった南地遊郭を救済しようと、新世界に隣接する飛田に遊郭を造るため尽力し、大正5年には「飛田遊郭」新設の許可が出ます。新世界のポテンシャルは否が応でも上がりました。菊人形大会、劇場、遊郭、東西合併相撲、そして国技館。新世界の街づくりすべてが順調に動き始めた矢先

当時、大阪では本場所や巡業だけでは生活できず、部屋ごとに様々な副業(蒲鉾屋を経営していた部屋も!)で生計を立てていました。

朝日山部屋もその例に漏れず、劇場や料理店、洋服屋、建設請負業などの仕事に携わっていたわけです。

朝日山と内国勧業博覧会

明治33年、驚天動地の出来事が起きます。なんと朝日山の出身地、天王寺の今宮が内国博の会場に決定。見たこともないようなハイカラな未来都市の建設が始まったのです。

内国博には、大阪初のエレベーターを備えた大林高塔や冷蔵庫、夜空を彩るネオンサイン輝く各種展示パビリオンが建ち並んでいました。

そのうちのひとつが、NHK大河ドラマ「いだてん」でお馴染みの嘉納治五郎が初期に関わった大日本体育会が開設した「体育場」でした。

体育館と運動具等の展示場、運動場を併せ持ち、世界の様々なスポーツの紹介の他、剣術、槍術、柔術など日本武道の実演や選手権試合を行うことになっていました。

朝日山は「日本全国、いや世界に大阪相撲を披露する絶好の機会だ。」



新世界と飛田遊郭(大阪市パノラマ地図)

朝日山は突然病に倒れ、大正5年7月、48才の波乱の生涯を終えます。

大阪国技館(初代)の完成

大正5年12月、朝日山の志を継いだ大阪相撲協会幹部の奔走が実り、大阪国技館株式会社が設立されます。そして、大正8年9月12日、待ちに待った大阪国技館が通天閣南側の霞町に完成します。総工費35万円、建坪5百坪、鉄筋鉄骨3階建ドーム式屋根の華麗な建築でした。

翌日「開館記念東西合併相撲」が華々しく開幕。10日間連続満員御礼のうちにめでたく千秋楽を迎えます。

かくして朝日山の夢は見事実現しましたが、良い時は続きません。大阪相撲は、やがて落日の時を迎えます。(続きは次号にて)



大阪国技館(新世界の国技館)